

事 業 報 告

第 2 5 期

〔 自 2 0 2 4 年 4 月 1 日
至 2 0 2 5 年 3 月 3 1 日 〕

仙 台 空 港 鉄 道 株 式 会 社

第 25 期 事業報告

I 事業の概況

仙台空港アクセス線は、仙台空港と仙台駅を結ぶ空港連絡鉄道として 2007 年 3 月 18 日に開業し、現在 19 年目を迎えました。2025 年 3 月末までのご利用者数は延べ 5,500 万人を超えるなど、仙台空港利用者のアクセス手段として、沿線住民や企業等の通勤・通学の足としての役割を着実に果たしてきました。また、開業以来「お客様、社員の死傷事故ゼロ」「重大事故ゼロ」を継続しております。皆様の日頃のご支援の賜物と改めて感謝申し上げます。

2024 年度は、新型コロナウイルス感染症からの再スタートの年と位置付けた 2023 年度を上回り、開業以来初めて 400 万人を超え過去最多の約 427 万人に達しました。

仙台空港駅では、国内の航空需要の回復や香港便の再開に伴う国際線の利用者の大幅増などにより、ご利用者数はコロナ禍前の 2019 年度を上回る約 211 万人となりました。また 2007 年に「まちびらき」を行った沿線の「りんくうタウン」も成熟期を迎え、美田園駅、杜せきのした駅のご利用者数はそれぞれ前年度を上回る約 72 万人、約 144 万人となるなど、3 駅ともに過去最多を更新しました。

収支については、ご利用者数の増加に伴い旅客運輸収入が前年度比で約 8,000 万円増加し、収入全体では対前年比 7.2%増の約 11 億 3,100 万円となりました。また支出は、修繕費や水道光熱費が見込みを下回ったこと等から約 9 億 7,900 万円となり、営業利益は約 1 億 5,200 万円となりました。さらに、宮城県から物価高騰対策として補助金 1,630 万円を交付していただいたこともあり、今期の純損益は約 1 億 5,400 万円の黒字と初めて 3 期連続の黒字となりました。

1 鉄道事業の取組

鉄道事業では、安全・安定輸送の確保を最優先に、お客様のより一層の満足度向上に向けた取組を展開するとともに、収入の確保に努めました。

(1) 安全・安定輸送に向けた取組

①教育訓練等の推進

安全面では、鉄道に従事する社員が的確に業務を遂行し、お客さまに安心してご利用いただけるよう教育・訓練の充実を図りました。特に 9 月に実施した総合異常時訓練では、実車両を使用して大規模地震時を想定したお客様の避難誘導訓練を実施したほか、10 月には鉄道警察隊と合同で列車内刃物事案対処訓練を行いました。また、他会社の事故復旧訓練にも積極的に参加するなど対応力の強化に努めました。

②社内の安全体制の充実等

社内の安全管理体制については、年度初めに安全管理会議において安全の基礎である「安全基本方針」、「安全目標」、「安全重点施策」を定めるとともに、毎月安全推進委員会を開催し、経営陣と現場管理者が自社・他会社等で発生した事象の把握とその対応策について検討し定例訓練やCS推進委員会^(*)を通じて社員に徹底しました。

※CS：Customer Satisfaction（顧客満足）

お盆や年末年始など多客輸送期には経営トップによる安全総点検を実施するとともに、輸送障害発生時や列車運行ダイヤに乱れが生じる可能性がある場合には、輸送対策本部を設置し、列車の運転計画の検討やお客さまへの情報の提供など状況に応じた対応を行えるよう体制を整えています。また、社内安全業務監査を実施し、業務の執行状況の確認と課題の抽出及びその改善に努めるとともに、社員が気付いた「ヒヤリ・ハット」情報の共有及び対策の徹底など、全社を挙げて安全の確保に向けた取組を進めました。

土木構造物や信号・通信設備、車両等については、計画的に点検や修繕・更新を行い、安全性の確保を図りました。

③お客さまの安全対策や満足度の向上

お客さまへの対応については、日頃から社員による声がけ・誘導案内の強化を行ってきました。特に身体の不自由なお客さまや小さなお子様連れのお客さま、ご高齢のお客さまの駅構内での転倒や転落事故防止に努めました。

また、社員一人ひとりの気づきや、お客さまからいただいたご意見、ご要望は「サービスメモ」として共有し、サービス品質の向上に役立てました。さらに海外からのお客さまにも分かりやすい列車案内ができるよう、駅構内や列車内における英語放送及び列車案内表の4か国語表記を行うとともに、タブレット端末やポケトーク等を活用した多言語による案内、情報提供を実施するなど、お客さまの満足度向上に努めました。

（2）お客さまの利便性と輸送力の向上

ゴールデンウィーク、お盆、年末年始等の繁忙期や、なとり夏まつり、仙台空港祭、東北・みやぎ復興マラソンなどより多くのお客さまのご利用が見込まれる沿線のイベント開催時には、車両の増結を行うことにより輸送力の向上を図りました。

2 鉄道事業以外の取組

鉄道事業以外では、代理店による駅舎や車両内の広告掲出と合わせ、直営による有料広告物の掲出依頼を推進しました。

構内営業のうち自動販売機の収入は、ご利用者の増加に伴いコロナ禍以前の水準を回復しました。また、遊休資産の活用として、旧施設管理所や高架下駐車場の賃貸を継続し、有効活用に努めました。

鉄道グッズの販売については、オリジナルキャラクターである「サツとくん」グッズのほか、当社の鉄道むすめ「杜みなせ」の新グッズを開発し販売するとともに、各種イベントに積極的に出店参加しました。また、仙台空港駅構内での販売会の実施やインターネットによる販売の拡大に努めました。

新たな取組としては、東北鉄道協会と民間事業者が共同で企画した東北・道南エリア版「鉄印帳・鉄印」の販売事業に参加し、好調な売り上げとなっています。

広告掲出が減少傾向にある中、引き続き様々な取り組みを進めるとともに、新たな施策の検討など収入の拡大を図ってまいります。

3 今後の見通しと対処すべき課題

2024 年度はコロナ禍以前の 2019 年度を上回る営業実績となりましたが、2025 年度はその流れを確実なものにするとともに、安全・安定運行の維持やお客さまの満足度向上に努めながら、施設設備等の修繕・更新など増加する資金需要に対応し、安定経営に向けた取組を進めてまいります。

今年 4 月以降も各駅のご利用者数の増加傾向は続いており、このままの状態が続けば今年度も一定の増加が予想されることから、純損益についても 4 年連続の黒字を想定しています。しかし、最近の米国の関税・通商政策は世界経済の不安定な要因となっており、我が国の企業や個人の経済社会活動、ひいては当社の経営にどのような影響を及ぼすのか不透明であることから、今後留意していく必要があります。

また、昨年度は株主や宮城県、関係自治体の皆様のご理解とご協力をいただき、2 月の臨時株主総会で当社の資本金の額を 1 億円に減少させる議案が承認され、3 月に手続きが完了しました。これにより、累積欠損額が約 7 億 9,300 万円まで縮小するとともに、税負担の減少など収益性の向上が図られました。

一方で、開業後 18 年が経過し、鉄道施設や駅務の設備等の修繕・更新に必要な費用が増加する時期を迎えています。こうした状況の変化を踏まえ、今後の経営の指針となる中期経営計画の見直しを行っていきます。

また、好調なインバウンド客を中心に今後もご利用者の増加が続く場合は、輸送体制の強化について検討する必要も生じると考えています。

東北の空の玄関口である仙台空港や成熟期を迎えている沿線地域を支える足としての使命を果たすとともに、地域の皆様に愛され頼りにされる企業を目指して努力してまいりますので、関係機関の皆様におかれましては、弊社の事業推進につきまして一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

4 設備投資の状況

当期中に実施した主な設備投資額は以下のとおりであります。

電話機交換装置の交換	21,952 千円
変電所他電源装置の蓄電池交換	26,489 千円
空港トンネルの照明器具 L E D	14,364 千円
社屋の灯具及び空調機の更新	12,745 千円
列車制御装置機器交換 (TIMES 端末)	10,818 千円
その他列車制御装置の部分交換	17,823 千円
2024 年 Suica 施策対応等に係るソフトウェア改修	9,200 千円

5 営業成績及び財産の状況推移

(単位：千円)

区 分	2021 年度 (第 22 期)	2022 年度 (第 23 期)	2023 年度 (第 24 期)	2024 年度 (第 25 期) (当 期)
営 業 収 益	659,638	907,538	1,054,949	1,130,903
経 常 損 益	△347,525	△118,826	28,131	148,652
当 期 純 損 益	△352,707	132,042	125,495	153,712
1 株当たり 当期純損益 (円)	△2,475.84	926.88	880.92	1,078.99
総 資 産	5,895,987	6,104,538	5,850,333	5,749,349

Ⅱ 会社の概況（2025 年 3 月 31 日現在）

1 主要な事業内容

鉄道事業法による第一種鉄道事業及びこれに付帯関連する事業

2 主要な営業所

本 社 名取市杜せきのした 5 丁目 34 番地

3 株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 1 5 0, 7 8 0 株
(2) 発行済株式の総数（普通株式） 1 4 2, 4 6 0 株（自己株式 120 株を除く）
(3) 株主数 1 1 0 名（自社除く）
(4) 大株主

株 主 名	持 株 数(株)	議決権比率 (%)
宮城県	7 5, 3 8 0	5 2. 9 1
仙台市	2 2, 8 0 0	1 6. 0 0
名取市	8, 6 2 0	6. 0 5
東日本旅客鉄道株式会社	7, 1 8 0	5. 0 4
公益財団法人宮城県市町村振興協会	6, 0 0 0	4. 2 1
岩沼市	4, 3 0 0	3. 0 2
東北電力株式会社	3, 0 0 0	2. 1 1
仙台国際空港株式会社	2, 4 0 0	1. 6 8
株式会社七十七銀行	2, 0 0 0	1. 4 0
山形県	1, 0 0 0	0. 7 0

4 使用人の状況

使用人数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
50 名	△1 名	37.60 歳	10.63 年

上記のうち 45 名は社員及び嘱託社員であり、5 名については東日本旅客鉄道株式会社からの出向社員であります。

5 借入金

借入先	借入金残高	借入先が所有する当社の株式	
		持株数	議決権比率
宮 城 県	千円 6,165,000	株 75,380	% 52.91
合 計	6,165,000	75,380	52.91

6 取締役及び監査役

(1) 取締役及び監査役の氏名等 (2025 年 3 月 31 日現在)

会社の地位	氏 名	主 な 職 業 また は 担 当
代表取締役社長	笹 出 陽 康	
*代表取締役専務	江 間 仁 志	
**取締役	小 林 徳 光	宮城県副知事
取締役	高 橋 新 悦	仙台市副市長
取締役	山 田 司 郎	名取市長
取締役	佐 藤 淳 一	岩沼市長
取締役	氏 家 照 彦	株式会社七十七銀行代表取締役会長
*取締役	渡 邊 隆 夫	東北電力株式会社執行役員宮城支店長
*取締役	青 井 修	東日本旅客鉄道株式会社東北本部 鉄道事業部モビリティサービスユニットリーダー
常勤監査役	今 野 順	
監査役	林 健 一	仙台ターミナルビル株式会社専務取締役ホテル事業本部長 兼 ホテルメトロポリタン仙台総支配人
監査役	今 野 薫	仙台商工会議所専務理事
監査役	坂 爪 敏 雄	株式会社仙台銀行代表取締役頭取

注1 *印は、2024 年 6 月 18 日開催の定時株主総会及び**印は 2024 年 11 月 22 日開催の臨時株主総会において、新たに選任された取締役であります。

2 監査役 4 名は、会社法第 335 条第 3 項に定める社外監査役であります。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の額

区 分	支給人員	報酬等の額
取 締 役	3 名	13,608 千円
監 査 役 (うち社外監査役)	1 名 (1 名)	1,200 千円 (1,200 千円)
合 計	4 名	14,808 千円

7 会計監査人の名称

公認会計士 安斎勇雄事務所
公認会計士 安 斎 勇 雄